

整備本部 2022-25 ローリングプラン説明会開催

今後の運航整備と今の熱中症対策を議論

WING

日本航空ユニオン宣伝ニュース
No 516 (13-11)
2022年 7月 21日

Tel: 03-5756-8690 URL <http://www.jlu.co.jp> e-mail honbu@jlu.co.jp

7月11日に整備本部と2022-25ローリングプランについての説明会(整本労協)がありました。会社側は田村整備本部長以下、各センター長、部長が参加し、最近の問題と整備の今後について協議、羽田で行われているMCTのトライアルについても確認しました。詳細はJLUニュース828~829をご覧ください。

これから先の運航整備のビジョンを聞きたい



ラインセンターのレイアウト変更にかなりのお金をかけると聞いているが？

しっかりやろう。お金についてはメリハリつけているから、リアルチェンジをしたい。やっぱりJALECの最前線基地だから、そこはカッコいいやつを作る。



カッコいいやつを作るにはビジョンが必要だ。レイアウトを考える時に、これからどう持って行きたいのかによって、全然席が変わってくる。ある程度のビジョンがないと、レイアウト変更の意見も出しにくい。

そのビジョンが「ゼロゼロ100」で、インターホンの委託は効率化ではなくて、目指すところは「ゼロゼロ100」だ。インターホンだけならグラハンの人でも世界中でやっている。でも我々整備士はもっと違う所を、ちゃんとケアして品質を上げていこうということ。壊れる前に手を打って、あるいは予測して計画的に作業をして、壊れたときにはサッと直す。その最前線基地がやっぱりラインセンターでありM1ハンガーというわけ。



私たちはTR-1導入も経験 今の状況と比較

JLUの前身は日本エアシステム(JAS)労組です。1990年代、規制緩和で飛行間点検1名が認められ、ANAと当時のJALは早々にTR-1を導入しました。JAS労組では94年に提案されてから99年頃まで反対運動を行いました。当時の労使の主張を振り返ります。

会社	組合
<ul style="list-style-type: none"> 目的は効率的な整備体制の構築 技術の進歩で安全は守られる(RISを導入) バックアップは確保する 	<ul style="list-style-type: none"> 定時性に影響する ダブルチェックができない スキルの維持、技能伝承に影響が出る。 N帯にしわ寄せが来る

導入してどうなった？

飛行間点検2名から1名へ1名からゼロへ？ 「ゼロゼロ100」を目指すなら整備の増員を

特別スペシャリスト 健康なら何歳まで？

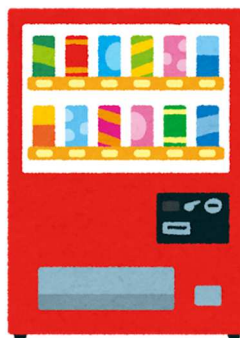
整備の人員を確保するうえで、シニアの存在は欠かせません。JALECでは65歳以降も「特別スペシャリスト」として働ける制度があります。2021年の高齢者雇用安定法の改正で「70歳までの就業機会確保」が努力義務となっています。JALECの特別スペシャリスト、早い人で来年度には68歳を迎えます。今のところ68歳の誕生日を上限としていますが、それ以降は未定です。当事者のことを考えて、更に延長するなら早めに示すべきです。

「もっと外を向き」わかったことは

熱中症対策や飲み物の提供について「外」がどうなっているか、職場で話題になったネットニュースを紹介。詳しくはYahooで検索！

●アクエリアスが「1本50円」工事現場・工場で広がる 「熱中症対策自販機」、企業のねらいは(7/3 J-CAST ニュース)

工事現場や工場などで設置先が費用負担し、現場で働く人に水分補給の機会を提供する取り組みが進んでいます。飲料メーカーによると「設置先企業が福利厚生の一環として費用負担し、現場で働く方に向けた水分補給の機会として提供されている」とのこと。プレハブ建築の大和リースも工事現場や、同社の工場などで導入。その他にも、会社から配られた専用カードをかざすと無料で飲料を受け取れる自販機も……。



●オフィスに食洗機？パナソニックなど5社、マイボトル利用促進で実証実験(5/6 Forbes JAPAN)

味の素 AGF・東京建物・サーモス・パナソニック・アペックスは、マイボトルの利用促進により廃棄物削減を目指す実証実験をしました。マイボトル利用による洗浄の手間を解消し、紙コップ由来の可燃ごみやペットボトルなどの廃棄物削減が目的です。

サーモスがマイボトルを、パナソニックが食洗器、アペックスと味の素がコーヒーメーカーとコーヒーを提供、東京建物が実証実験のフィールドを提供しアンケートをまとめます。

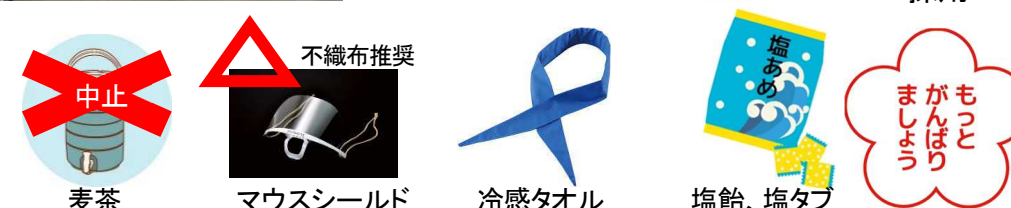


●麦茶の提供を中止し、冷水器で水分補給？

外を向くと、熱中症、SDGs 対策が進んでいることがわかりました。衛生面とコップ代、準備の手間で麦茶の提供を中止している JALEC 羽田の職場では、「冷水器がようやく直ったので使ってください」というレベル。外の工事現場にある無料自販機を横目に見ながら、暑い夏が続きます。

これまでの熱中症対策を振り返って

JLU では屋外作業手当を要求しつつ、毎年熱中症対策について協議してきました。成果は微妙ですが、職場の声は伝えています。



今年の夏はマスク着用基準が変わっています

また最近コロナの新規感染者が増えています。5月に厚労省の考え方が変更され、JALECでも6月1日の業連でマスク着用基準が緩和されています。昨年も屋外で会話がない時は着用しなくていいことになっていました。しかしお客様の目が気になって外せない人もいたため、組合から外への周知を求めて JAL HP に記載されるようになりました。今年は屋内でも会話がない作業時は着用不要に。これも熱中症対策ということです。